

科目名	障害児教育学									
科目名(英)										
単位数	1		時間数	30時間		担当者	永野 淳子			
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	小児施設にて心理担当職員として勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年									
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚障害臨床について、学習するうえで基礎となる教育に関する知識・技能・態度を習得する									
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				教育の基本概念とシステムについて説明できる				
	○	○				幼児教育・学校教育における各専門職の役割と機能について説明できる				
	○	○				障害がある幼児・指導への支援制度・システム・サービスについて説明できる				
	○	○				専門職連携について説明できる				
	○	○		○		障害を持ちながら成長する過程で教育がどのような役割を果たしているかを説明できる				
テキスト・教材 参考図書	・西東社 イラスト図解 発達障害の子どもの心と行動がわかる本									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	教育の基本概念(幼児教育・学校教育)								
	2	障害児教育(特別支援教育)の概念ー障害児教育の歴史ー								
	3	特別支援教育とその枠組み								
	4	幼児教育における専門職の役割								
	5	学校教育における専門職の役割								
	6	障害児教育各論① 視覚障害								
	7	障害児教育各論② 聴覚障害								
	8	障害児教育各論③ 病弱								
	9	障害児教育各論④ 肢体不自由								
	10	障害児教育各論⑤ 知的障害								
	11	障害児教育各論⑥ 発達障害								
	12	昨今の子どもをめぐる問題① 不登校・いじめ								
	13	昨今の子どもをめぐる問題② 児童虐待・貧困								
	14	事例検討① 障害児の事例								
	15	事例検討② 家庭環境に問題を抱える児の事例								
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	○	○				80%			
	小テスト									
	宿題・レポート	○	○				20%			
	発表・作品									
履修上の注意										

科目名	医学論文										
科目名(英)	Medical English (Introduction to Medical English)										
単位数	1		時間数	30時間		担当者	学科教員				
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	施設にて言語聴覚士として勤務				
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年										
授業概要	・医学論文の検索に慣れ、スムーズに検索システムを活用することができるようになる。 ・日々の学習において理解を深めるために医学論文を活用できるようになることを目標とする。										
授業形式	講義:		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				医学論文検索システムを使用することができる					
	○	○				医学論文の内容に慣れ、必要な情報を読みとる方法が理解できる。					
	○	○				論文を読み通して、発表を通し文献抄読におけるプレゼンテーションができる。					
テキスト・教材 参考図書	プリント資料による										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	授業の説明・論文検索システムについて					本日の内容を振り返りシステムを開いてみる。				
	2	論文を読むことが大切な理由について					教科書に紹介してある参考文献、引用文献をみて、検索してみる				
	3	重要な論文を手取り早く探す方法について					興味のある、教科について論文検索を行ってみる。				
	4	優れた論文が掲載されている雑誌を手にとってみよう					各学科のHPを開き、情報を検索する				
	5	実際の論文の読み方					論文を検索し、本日の内容を参考に文献をよんでみる。				
	6	論文抄読について					次回の論文の高次脳機能障害の論文1本の印刷				
	7	医学論文:失語症、高次脳機能障害 資料作り					抄読会の準備(運営等)				
	8	医学論文:失語症、高次脳機能障害 論文抄読会					次の論文の運動障害性構音障害、嚥下障害、音声障害の論文1本の印刷				
	9	医学論文:運動障害性構音障害、嚥下障害、音声障害 資料作り					抄読会の準備(運営等)				
	10	医学論文:運動障害性構音障害、嚥下障害、音声障害 論文抄読会					次の論文聴覚障害の論文1本印刷しておく				
	11	医学論文:聴覚障害 資料作り					抄読会の準備(運営等)				
	12	医学論文:聴覚障害 論文抄読会					次の論文の小児、吃音の論文1本印刷しておく				
	13	医学論文:小児、吃音 資料作り					抄読会の準備(運営等)				
	14	医学論文:小児、吃音 論文抄読会					次の時間までに、興味のある論文を2本検索し読み通しておく				
	15	各自興味をもって検索した論文について紹介しあう					資料のまとめをしておく				
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験										
	小テスト										
	宿題・レポート	○		○							50%
	発表・作品	○		○							50%
履修上の注意											

科目名	医学総論							
科目名(英)								
単位数	1		時間数	30時間		担当者	大久保史子・今村亜子 ・安藤廣美	
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年							
授業概要	医療従事者の一員として医学の歴史を学び、医学の成り立ちについて理解することを目指す。リハビリテーションにおける全人的尊重の理念を理解するために、ICFや死について理解を深め、個別な対応の必要性を認識することを目指す							
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					医学の歴史を知り、成り立ちについて概要を説明できる		
		○				全人的なアプローチの基礎を築くためにICFの理念について説明できる		
		○				死ぬということについて学び、死にゆく人に対する配慮をイメージし説明できる		
		○				支援者・家族の立場を理解し、サポートすることの必要性を説明できる		
テキスト・教材 参考図書	・ 医学書院 学生のための医療概論 第4版							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	第1章 医療の基本「人道主義・人権」について考え				教科書と配布プリントをもとに復習を行う		
	2	患者の権利を尊重する				教科書と配布プリントをもとに復習を行う		
	3	医療現場の倫理・2つのケースから学ぶ臨床倫理				教科書と配布プリントをもとに復習を行う		
	4	人の気持ちを慮えることの大切さ・情報共有とチーム医療				教科書と配布プリントをもとに復習を行う		
	5	カウンセリングによる自己決定支援・医療職のプロフェッショナリズムによる自己決定支援				教科書と配布プリントをもとに復習を行う		
	6	医療職のプロフェッショナリズム				教科書と配布プリントをもとに復習を行う		
	7	第1章まとめ				教科書と配布プリントをもとに復習を行う		
	8	第2章 健康の決定要因とヘルスプロモーション				教科書と配布プリントをもとに復習を行う		
	9	第2章 Well beingのとらえ方と支援				教科書と配布プリントをもとに復習を行う		
	10	第3章 近代医学の誕生と感染症対策・非感染性疾患の増加				教科書と配布プリントをもとに復習を行う		
	11	ゲノム医学の登場からゲノム編集へ・医療情報テクノロジーの活用に伴う課題				教科書と配布プリントをもとに復習を行う		
	12	健康影響をもたらす環境問題と医療職のあり方・薬害にみる利害関係の医療への影響と医療の質				教科書と配布プリントをもとに復習を行う		
	13	補完代替療法と全人的統合医療・臓器移植から再生医療へ				教科書と配布プリントをもとに復習を行う		
	14	健康を次世代へつなぐこと・科学的根拠とこれからの医療				教科書と配布プリントをもとに復習を行う		
	15	第3章まとめ				教科書と配布プリントをもとに復習を行う		
評価方法	(1)レポートを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎	○				80%	
	小テスト	◎	◎				10%	
	宿題・レポート	○	◎				10%	
履修上の注意								

科目名	内科学(老年医学含む)											
科目名(英)	Internal Medicine I											
単位数	1		時間数		30時間		担当者		眞崎 義憲			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		大学病院にて医師として勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年											
授業概要	・言語聴覚療法実施に置いて不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。 ・言語聴覚療法に関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 ・内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・内科疾患の症状を理解することで、言語聴覚療法治療上でのリスク管理を理解する。											
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				内科疾患の現状を説明できる						
	○	○				内科における各疾患の特徴が説明できる。						
	○	○				内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。						
	○	○				言語聴覚士がかかわる内科疾患の治療実践を説明できる。						
	○	○		○		言語聴覚療法の中で内科疾患治療の必要性を説明できる。						
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	診断と治療					教科書で予習しておく。					
	2	症候学					まとめプリントを使用して復習しておく。 教科書で予習しておく。					
	3	循環器疾患 総論					まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。					
	4	循環器疾患 各論					まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。					
	5	呼吸器疾患 総論					まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。					
	6	呼吸器疾患 各論					まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。					
	7	消化器疾患 総論					まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。					
	8	消化器疾患 各論					まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。					
	9	腎臓疾患 各論					まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。					
	10	腎臓疾患 各論					まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。					
	11	膠原病・アレルギー・免疫疾患 総論・各論					まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。					
	12	内分泌・代謝疾患 総論・各論					まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。					
	13	血液・造血器疾患 総論・各論					まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。					
	14	感染症疾患 総論・各論 再生医療 総論・各論					まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。					
	15	まとめ										
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	◎		◎								100%
履修上の注意												

科目名	リハビリテーション医学（一般臨床医学）										
科目名(英)	Rehabilitation medicine										
単位数	1		時間数	30時間		担当者	飯塚病院医療スタッフ				
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	各専門職として病院に勤務				
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年										
授業概要	リハビリテーション医療の役割について理解し、その構造を把握する。 また、リハビリテーション医学における関係職種の役割について把握し、チームアプローチの重要性を理解する。										
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				リハビリテーションの歴史について説明できる。					
	○	○				リハビリテーションの理念と対象について分類でき説明できる。					
	○	○				リハビリテーション関係職種の役割について把握し説明できる。					
	○	○				救命医学の基本概念が説明できる。					
	○	○	○			基本的救命措置が実施できる。					
テキスト・教材 参考図書	なし										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	リハビリテーション医学の成り立ち					授業資料を基に復習する				
	2	リハビリテーションの理念と対象					授業資料を基に復習する				
	3	診断と評価 各種疾患の臨床 1					授業資料を基に復習する				
	4	診断と評価 各種疾患の臨床 2					授業資料を基に復習する				
	5	リハビリテーション医学とリハビリテーションの全体像					授業資料を基に復習する				
	6	リハビリテーションチームについて					授業資料を基に復習する				
	7	各種アプローチについて 看護学					授業資料を基に復習する				
	8	各種アプローチについて 社会福祉学					授業資料を基に復習する				
	9	各種アプローチについて PT概論					授業資料を基に復習する				
	10	各種アプローチについて OT概論					授業資料を基に復習する				
	11	各種アプローチについて 介護福祉士の仕事					授業資料を基に復習する				
	12	各種アプローチについて 歯科衛生士とSTとのかかわり					授業資料を基に復習する				
	13	各種アプローチについて 栄養士とSTとのかかわり					授業資料を基に復習する				
	14	障がい者当事者講義					授業資料を基に復習する				
	15	まとめ					授業資料を基に復習する				
評価方法	以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験										
	小テスト	◎	◎				30%				
	宿題・レポート		○		○		60%				
	発表・作品				◎		10%				
履修上の注意	まとめ課題レポートあり。										

科目名	臨床心理学						
科目名(英)	Clinical psychology						
単位数	1		時間数	30時間	担当者	富永 明子	
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	臨床心理学の基礎理論を学ぶことを通して、人のこころのしくみ、およびこころの問題について理解する。さらに、代表的な心理アセスメント、心理療法について学習し、臨床心理学 的な支援の具体的方法について知り、理解する。実践的プログラムを通して理解を深める。また、卒業後の現場において臨床心理学を活かしていけるために、他者とのかわり や自分自身についての思考・感情・言動をふりかえり、理解する視点をもつ機会とする。						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人格、発達理論を列挙できる。また、それぞれについて概説できる。	
	○	○				心理アセスメント、心理療法を列挙できる。また、それぞれについて概説できる。	
		○				臨床心理の基礎的な技法について実践することができる。	
		○		○		ワークを通して自己認識を深め、他者視点について考え態度に反映することができる。	
				○	○	他者とのかわりや自分自身について振り返り、理解する視点を持つことができる。	
テキスト・教材 参考図書	「心とかかわる臨床心理」基礎・実際・方法」川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著 ナカニシヤ出版 「はじめて学ぶ人の臨床心理学」杉原一昭監修 中央法規出版 参考文献：「自己主張トレーニング」ロバート・E・アルベルティ、マイケル・L・エモンズ(著)東京図書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業の概要、臨床心理学とは何か				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく	
	2	人格理論 精神分析理論、分析的心理学、自己理論、自己愛理論				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく	
	3	発達理論 分離-個体化理論、対象関係論、心理・社会的発達理論				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく	
	4	心理アセスメント 情報収集と整理、発達検査、知能検査、人格検査				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく	
	5	心理療法① 基本的態度、クライエント中心療法 精神分析療法、分析的心理学療法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく	
	6	心理療法② 遊戯療法、芸術療法、森田療法、家族療法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく	
	7	心理療法③ 行動療法、認知行動療法、自律訓練法、集団心理療法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく	
	8	心理アセスメントの実際－質問紙法、投影法				教科書をもとに予習し、授業内容を振り返って復習する。	
	9	心理療法の実際①－カウンセリング				教科書をもとに予習し、授業内容を振り返って復習する。	
	10	心理療法の実際②－認知行動療法、描画療法				教科書をもとに予習し、授業内容を振り返って復習する。	
	11	心理療法の実際③－芸術療法(コラージュ)				教科書をもとに予習し、授業内容を振り返って復習する。	
	12	自己尊重ワーク、傾聴トレーニング				教科書をもとに予習し、授業内容を振り返って復習する。	
	13	アサーティブ・トレーニング① アサーティブネスとは				教科書をもとに予習し、授業内容を振り返って復習する。	
	14	アサーティブ・トレーニング② ロールプレイによるトレーニング				教科書をもとに予習し、授業内容を振り返って復習する。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎		○	○	100%
履修上の注意							

科目名	学習認知心理学の理論									
科目名(英)										
単位数	1		時間数	30時間		担当者	大森 晶子			
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	施設にて言語聴覚士として勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年									
授業概要	高次脳などに深くかかわる人の認知を理解する									
授業形式	講義: ○		演習:	実習:		実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				記憶メカニズムについて概説することができる				
	○	○				条件づけについて概説することができる				
	○	○				教科および消去について概説することができる				
	○	○				社会的学習について概説することができる				
	○	○				記憶・学習について概説することができる				
テキスト・教材 参考図書	教科書:サイエンス社 学習の心理 行動のメカニズムを探る									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	記憶メカニズム					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する			
	2	記憶の種類とテスト					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する			
	3	エピソード記憶とメタ記憶					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する			
	4	忘却					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する			
	5	古典的条件付け					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する			
	6	古典的条件付け					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する			
	7	味覚嫌悪・高次条件付け					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する			
	8	テスト					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する			
	9	オペラント条件付け(オペラントメカニズム)					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する			
	10	三項随伴性・強化メカニズム					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する			
	11	正負の強化					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する			
	12	消去のスケジュール					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する			
	13	社会的学習(観察・学習)					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する			
	14	社会的学習(模倣学習・問題解決)					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する			
	15	まとめ					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する			
評価方法	(1)課題を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)小テストを実施する。 以上を下記の支店・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	○	◎				50%			
	課題	○	◎				10%			
	小テスト						40%			
履修上の注意										

科目名	失語症の理解										
科目名(英)	realization of aphasia										
単位数	1		時間数	30時間		担当者	高津原 直樹				
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	病院で言語聴覚士として勤務				
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 2年										
授業概要	・基本的な失語症についての定義、知識を習得する。 ・失語症古典的分類におけるそれぞれの特徴を把握し、鑑別する。 ・言語症状を認知神経心理学的モデルにあてはめて考え、その発現機序を説明する。										
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△				
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標					
	○	○				失語症の定義について説明することができる。					
	○	○				病巣と症状から失語症の古典的タイプ分類ができる。					
	○	○				失語症状と近縁症状との鑑別ができる。					
	○	○				失語症の各タイプの代表的な特徴を、何も見ずに列挙できる。					
テキスト・教材 参考図書	小嶋 知幸著 なるほど失語症の評価と治療 新興医学出版社 SLTA 標準失語症検査 マニュアル 藤田 郁代著 失語症学第3版 医学書院 大森 孝一、永井千代子著 言語聴覚士テキスト第3版 医歯学出版株式会社										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	失語症の定義 原因疾患、責任病巣					Formsで繰り返し課題を実施。30分 復習用動画視聴60分				
	2	失語症の症状(聴く) 認知神経心理学的モデルの活用					Formsで繰り返し課題を実施。30分 復習用動画視聴60分				
	3	失語症の症状(話す) 認知神経心理学的モデルの活用					Formsで繰り返し課題を実施。30分 復習用動画視聴60分				
	4	失語症の症状(読む) 認知神経心理学的モデルの活用					Formsで繰り返し課題を実施。30分 復習用動画視聴60分				
	5	失語症の症状(書く) 認知神経心理学的モデルの活用					Formsで繰り返し課題を実施。30分 復習用動画視聴60分				
	6	単元テストⅠ(1～5までの範囲)					12/20点未満者は、正誤表を記入し期日までに提出 することで再評価を受けることが出来る。				
	7	古典的分類:ブローカ失語、ウェルニッケ失語					Formsで繰り返し課題を実施。30分 復習用動画視聴60分				
	8	古典的分類:伝導失語、失名辞失語、全失語					Formsで繰り返し課題を実施。30分 復習用動画視聴60分				
	9	古典的分類:超皮質性失語(運動性、感覚性、混合性)					Formsで繰り返し課題を実施。30分 復習用動画視聴60分				
	10	単元テストⅡ(7～9までの範囲)					12/20点未満者は、正誤表を記入し期日までに提出 することで再評価を受けることが出来る。				
	11	その他の失語症候群: 語義失語、皮質下性失語、原発性進行性失語					Formsで繰り返し課題を実施。30分 復習用動画視聴60分				
	12	純粋型①:純粋語聾、純粋発語失行、純粋失読					Formsで繰り返し課題を実施。30分 復習用動画視聴60分				
	13	純粋型②:純粋失書、失読失書					Formsで繰り返し課題を実施。30分 復習用動画視聴60分				
	14	後天性小児失語症					Formsで繰り返し課題を実施。30分 復習用動画視聴60分				
	15	単元テストⅢ(11～14までの範囲)					12/20点未満者は、正誤表を記入し期日までに提出 することで再評価を受けることが出来る。				
評価方法	(1)授業の中で単元テストを3回実施する。(2)宿題を12回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	○		○				30%			
	単元テスト	○		○				60%			
	宿題・レポート	○		○		○		10%			
	発表・作品										
履修上の注意											

科目名	高次脳機能障害の理解									
科目名(英)										
単位数	1		時間数	30時間		担当者	三田 智巳			
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	言語聴覚士として病院に勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年									
授業概要	高次脳機能障害における評価の手順(観察を含む)を組み立てることができる。神経心理検査の使い方を確認し、各領域の検査概要を覚える。特にコース立方体組み合わせテスト、レーブン色彩マトリシス検査、改訂 長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R)、Mini-Mental State Examination (MMSE)を実施できるようになる。その他の高次脳機能障害の検査についても、概要を理解し、実施するための知識を身に付ける。国家試験対策のため、小テストの解説を覚え、アウトプットできる。									
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				高次脳機能障害の検査について説明できる。				
	○	○				国家試験問題を解くことができる。				
	○	○	○			実技テストにて、正しく検査が遂行できる。				
テキスト・教材 参考図書	教科書 :白波瀬元道 ST評価ポケット手帳 ヒューマン・プレス、藤田 郁代、標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学、医学書院									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	高次脳機能障害の評価の流れ、原則、手続き、鑑別診断。評価サマリ・訓練計画作成、評価結果の説明、カンファレンスでの報告					1年次の復習を30分程度しておく。			
	2	コース立方体組み合わせ わせテスト					復習を30分程度しておく。			
	3	レーブン色彩マトリシス検査					復習を30分程度しておく。			
	4	改訂 長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R)					復習を30分程度しておく。			
	5	MMSE-J、COGNISTAT 認知機能検査、MoCA-J軽度認知障害スクリーニング等					復習を30分程度しておく。			
	6	記憶機能検査(S-PA、三宅式記銘検査)					復習を30分程度しておく。			
	7	記憶機能検査(WMS-R)					復習を30分程度しておく。			
	8	記憶機能検査(リバーミード行動記憶検査)					復習を30分程度しておく。			
	9	実技テスト(コース、レーブン、HDS-R、MMSE-J)					実技練習を1時間以上しておく。			
	10	実技テスト(コース、レーブン、HDS-R、MMSE-J)					実技練習を1時間以上しておく。			
	11	注意機能検査の検査 TMT-J					復習を30分程度しておく。			
	12	WAIS-Ⅲ 概論					復習を30分程度しておく。			
	13	WAIS-Ⅲ 各論					復習を30分程度しておく。			
	14	WAIS-Ⅲ 結果のまとめ					復習を30分程度しておく。			
	15	国家試験問題、まとめ					復習を30分程度しておく。			
評価方法	(1)小テストを実施 (2)定期試験(筆記実技)(3)実技テスト1回、を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	○	○				60%			
	小テスト・レポート	○	○				20%			
	実技テスト	○	○	○			20%			
履修上の注意										

科目名	知的障害の展開										
科目名(英)											
単位数	1		時間数		45時間		担当者		三田 智巳・永江 信吾		
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 2年										
授業概要	知的障害児に対する言語聴覚療法の評価診断、および言語治療(指導・支援)に関する知識、技能、態度を習得する。										
授業形式	講義: ○		演習: ○		実習:		実技: △		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				知的障害児に対する言語治療における言語聴覚士の役割を説明できる					
	○	○		○		言語聴覚療法の評価診断の基本概念と方法を説明し、模擬的に実施でき、レポートが作成できる					
テキスト・教材 参考図書	石田宏代・石坂郁代/編 言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版 (医歯薬出版)2016年 藤田郁代/編 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版(医学書院)2017年										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	知的障害児の評価診断とは					30分程度の予習・復習を行う				
	2	知的障害児の言語治療(指導・支援)とは					30分程度の予習・復習を行う				
	3	評価診断(評価診断の原則、手続き、情報収集の方法)					30分程度の予習・復習を行う				
	4	評価診断(認知行動面、環境面の情報収集言語面の評価)					30分程度の予習・復習を行う				
	5	言語面の評価(言語理解・表出、コミュニケーション、スピーチ領域)					340分程度の予習・復習を行う				
	6	発達面の評価(遠城寺式乳幼児分析的発達検査)					30分程度の予習・復習を行う				
	7	言語面の評価(LCスケール)検査の特徴と手応え課題					30分程度の予習・復習を行う				
	8	言語面の評価(LCスケール)手応え課題からの展開方法					30分程度の予習・復習を行う				
	9	言語面の評価(FOSCOM)					30分程度の予習・復習を行う				
	10	言語面の評価(国リハ式(S-S)法言語発達遅滞検査)概論					30分程度の予習・復習を行う				
	11	言語面の評価(国リハ式(S-S)法言語発達遅滞検査)各論					30分程度の予習・復習を行う				
	12	実技練習					30分程度の予習・復習を行う				
	13	言語面の評価(J.COSS日本語理解テスト)					30分程度の予習・復習を行う				
	14	言語面の評価(小学生の読み書きスクリーニング検査)					30分程度の予習・復習を行う				
	15	言語面の評価(絵画語彙発達検査)					30分程度の予習・復習を行う				
	16	言語面の評価(質問-応答関係検査)概論					30分程度の予習・復習を行う				
	17	言語面の評価(質問-応答関係検査)結果の見方					30分程度の予習・復習を行う				
	18	言語面の評価(ことばのテスト絵本)					30分程度の予習・復習を行う				
	19	実技練習					30分程度の予習・復習を行う				
	20	ケーススタディ(模擬症例の情報収集、評価方法の立案)					グループワークで情報収集、評価計画を話し合う 検査練習(30分)				
	21	ケーススタディ(模擬症例の評価演習)					検査練習(30分)				
	22	ケーススタディ(模擬症例の評価結果のまとめ)					結果のまとめ作成(30分)				
	23	まとめ(その他の検査、国家試験対策)					講座全体を振り返り、試験対策を行う(60分)				
評価方法	(1)小テストを複数回実施する。(3)レポート作成を複数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	○	○				50%				
	小テスト	○	○				25%				
	レポート	○	○		○		25%				
履修上の注意											

科目名	ASD・ADHDの展開										
科目名(英)											
単位数	1		時間数		30時間		担当者		福島 志津		
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		小児施設にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年										
授業概要	ASD・ADHDに対する言語聴覚療法の評価診断、および言語治療(指導・支援)に関する知識、技能、態度を習得する。										
授業形式	講義:		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				ASD・ADHD児に対する言語治療における言語聴覚士の役割を説明できる					
	○	○		○		ASD・ADHD児に対し、言語聴覚療法の評価診断の基本概念と方法を説明し、模擬的に実施できる					
テキスト・教材 参考図書	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学(医学書院) 言語聴覚士ドリルプラス 言語発達障害(診断と治療社)										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	AS児の評価診断と言語治療(指導・支援)とは					Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)				
	2	評価診断(評価診断の原則、手続き、情報収集の方法)					Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)				
	3	評価診断(認知行動面、環境面の情報収集)					Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)				
	4	ASDの評価診断支援の概要					Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)				
	5	M-CHAT					Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)				
	6	ADI-R、ADOS2、PARS-TR					Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)				
	7	PEP-3、CARS自閉症評定尺度					Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)				
	8	ASD単元テストと振り返り					Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)				
	9	ADHDの評価診断支援の概要					Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)				
	10	行動療法、感覚プロフィール					Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)				
	11	ADHD-TR、ADHDの薬物療法					Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)				
	12	ASD・ADHD・LD・DCDなどの合併例について					Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)				
	13	ADHD単元テストと振り返り					Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)				
	14	ケーススタディ(模擬症例)					Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)				
	15	まとめ(定期試験と国家試験対策)					講座全体を振り返り、試験対策を行う。(60分)				
評価方法	(1)小テストを10回実施する。(2)単元テストを2回実施する。(3)定期試験 (4)振り返り課題 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	◎	◎				40%				
	小テスト	○	◎				30%				
	単元テスト	○	◎				20%				
	振り返り課題		◎		○		10%				
履修上の注意											

科目名		機能性構音障害の理解と展開					
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	今村 亜子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	小児施設に言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年		言語聴覚学科 2年					
授業概要		機能性構音障害の基礎知識、構音検査の実施と分析方法を習得する。系統的構音訓練の枠組みを知り、立案。実施。計画を実践できる力を身につける。関連部にやの理論的背景、エビデンスに基づく臨床思考を身につける					
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				音声学の知識を構音障害臨床との関連について説明できる	
	○	○				機能性構音障害の定義とその症状について説明することができる	
	○	○	○			機能性構音障害に関わる検査を選択することができ遂行することができる	
	○	○	○			訓練プログラムの概要を理解し説明することができる	
	○	○	○			それぞれの訓練内容におけるPLAN・DO・SEEの過程を実施することができる	
テキスト・教材 参考図書	学」第3版 参考文献：協同異種出版社「言語聴覚療法臨床マニュアル」第3版、学苑社「わかりやすい側音化構音と口蓋化構音の評価と指導法：舌運動訓練活用法」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	音声学・音韻論と臨床の接点				指定教科書と過去の音声学の教科書および配布プリントを使用し復習しておく	
	2	発達途上の小児の構音障害				教科書、参考書、配布プリントを使用し復習しておく	
	3	演習) 構音類似運動検査				自主演習をしておく	
	4	演習) 構音検査、結果のまとめと分析				自主演習および配布プリントを使用し復習しておく	
	5	系統的構音訓練の枠組み				自主演習および配布プリントを使用し復習しておく	
	6	演習) 構音訓練の立案・実施・評価(単音～単音節レベル)				自主演習および配布プリントを使用し復習しておく	
	7	演習) 構音訓練の立案・実施・評価(連続音節レベル①教材の留意点)				自主演習および配布プリントを使用し復習しておく	
	8	演習) 構音訓練の立案・実施・評価(連続音節レベル②実施の留意点)				自主演習および配布プリントを使用し復習しておく	
	9	演習) 構音訓練の立案・実施・評価(単語レベル)				自習演習および配布プリントを使用して復習しておく	
	10	演習) 構音訓練の立案・実施・評価(句・短文レベル)				自主演習および配布プリントを使用して復習しておく	
	11	演習) 構音訓練の立案・実施・評価(句・短文レベル)				自習演習および配布プリントを使用して復習しておく	
	12	演習) 構音訓練の立案・実施・評価(般化アプローチ)				自主演習および配布プリントを使用して復習しておく	
	13	異常構音への対応 について				難治性の構音の誤りに対するアプローチを学ぶ	
	14	音声知覚・音韻処理について				カテゴリー知覚の重要性を理解し、音韻処理に着目したアプローチを学ぶ。	
	15	まとめ				配布プリントを使用して復習しておく	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)模擬ケースに対するレポートを作成する。(3)模擬ケースに対するアプローチについて発表する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○		○		10%
	発表・作品	○	○	○	○		30%
履修上の注意							

科目名		運動障害性構音障害の理解					
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	潮崎 桃子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	構音運動のメカニズムについて理解し説明できる。構音障害の特徴について理解し、運動障害性構音障害の診断と分類ができる。評価実習に向けて言語聴覚士に必要なふるまいやコミュニケーション態度、学習能力の基礎を築き、個人の課題を具体的にみつけることができる。						
授業形式	講義： ○	演習： ○	実習：	実技： △	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				運動障害性構音障害の発現機序を説明するために、構造と機能を説明できる	
	○	○				運動障害性構音障害の病態について説明できる。	
		○	○			運動障害性構音障害について、一般情報収集から問診および検査について説明できる	
				○		言語聴覚士としてのふるまいについてイメージを持ち、態度に反映することができる。	
				○	○	授業において疑問に思うことができ、問題解決のために質問に結び付けることができる	
テキスト・教材 参考図書	ディサースリア臨床標準テキスト 西尾正輝 著/医歯薬出版株式会社 運動障害性構音障害学 廣瀬肇 著/医歯薬出版株式会社 言語聴覚士ドリルプラス運動障害性構音障害 大塚裕一 編集/株式会社 診断と治療社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コミュニケーション障害と運動障害性構音障害/定義・障害構造				指定教科書と過去の音声学の教科書および配布プリントにて復習しておく	
	2	運動系の基礎理解(運動系の概要、錐体路系、錐体外路系)				教科書と配布資料にて本日の授業まとめをA4一枚に作成する	
	3	運動系の基礎理解(小脳系・下位運動ニューロン・筋系)				教科書と配布資料にて本日の授業まとめをA4一枚に作成する	
	4	運動系の基礎理解(発声発語器官の構造および筋肉の働き)				授業まとめの作成、【言語聴覚士ドリルプラス】の運動障害性構音障害にかかわる解剖と生理(10～20ページ)を予習する	
	5	運動系の障害(錐体路系、錐体外路系)				教科書と配布資料にて本日の授業まとめをA4一枚に作成する	
	6	運動系の障害(小脳系、下位運動ニューロン)				教科書と配布資料にて本日の授業まとめをA4一枚に作成する	
	7	発声発語器官の運動機能障害、聴覚的な発話特徴				授業まとめの作成、【ディサースリア臨床標準テキスト】の16～22ページを予習する	
	8	タイプごとの病態特徴と重症度(弛緩性、痙性、UUMN)				教科書と配布資料にて本日の授業まとめをA4一枚に作成する	
	9	タイプごとの病態特徴と重症度(運動低下性、運動過多性)				教科書と配布資料にて本日の授業まとめをA4一枚に作成する	
	10	タイプごとの病態特徴と重症度(失調性、混合性)				教科書と配布資料にて本日の授業まとめをA4一枚に作成する	
	11	各運動障害性構音障害の特徴のまとめ				今までに学んだ配布資料と教科書、自分で作成した授業まとめを見直す	
	12	運動障害性構音障害の評価(臨床の流れ、鑑別診断、検査)				教科書と配布資料にて本日の授業まとめをA4一枚に作成する	
	13	問診・観察を通しての理解(情報収集と問題点抽出、ICF)				教科書と配布資料にて本日の授業まとめをA4一枚に作成する	
	14	失語症補助テスト				失語症補助テストの教示を書き込む	
	15	失語症補助テスト、まとめ				クラスメートとペアで失語症補助テストの実技練習を1回する	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	小テスト	○					20%
	宿題・レポート	○	○		○		5%
	授業内演習			○	○		5%
履修上の注意							

科目名	摂食嚥下障害の理解										
科目名(英)	Understanding dysphagia										
単位数	1		時間数	30時間		担当者	八木 智大				
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務				
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 2年										
授業概要	摂食嚥下障害について基本的な概念を学びます。また、摂食嚥下障害によって引き起こされる合併症や関連障害が私たちの生活に与える影響について具体的に想像できるだけの知識を獲得します。嚥下障害や関連障害に対する訓練や支援方法を立案する為に、病態の評価方法や基本的技法を説明できるようになります。										
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技： △		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				摂食嚥下に対するリハビリテーションの目的を説明することができる。					
	○	○				摂食嚥下に関与する神経、筋を含む構造を説明できる。					
	○	○				健常人における摂食嚥下モデルを説明することができる。					
	○		○			摂食嚥下障害に対する基本的な評価技法をクラスメートに実施することができる。					
		○		○		自らの考えをグループワークや個別課題の中で表現することができる。					
テキスト・教材 参考図書	教科書：藤島一郎ほか「脳卒中中の摂食嚥下障害 第3版 web動画付き」医歯薬出版株式会社、2017 聖隷嚥下チーム「嚥下障害ポケットマニュアル 第3版」医歯薬出版株式会社、2018										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	嚥下障害総論～オリエンテーションと嚥下器官を描けるようになる～					教科書の該当部分を復習する。資料を基に嚥下器官の構造を図示できるようになっておく(1時間)				
	2	嚥下のメカニズムを学ぶ ～嚥下モデルについて～					教科書の該当部分を復習する。(30分)				
	3	嚥下のメカニズムを学ぶ ～嚥下に関わる筋肉について～					教科書の該当部分を復習する。(30分)				
	4	嚥下のメカニズムを学ぶ ～嚥下に関わる神経について～					教科書の該当部分を復習する。(30分)				
	5	摂食嚥下障害の原因と病態を学び列挙することができる。					教科書の該当部分を復習する。(30分)				
	6	脳卒中による嚥下障害を学び病態の特徴を説明できるようになる					教科書の該当部分を復習する。(30分)				
	7	摂食嚥下障害に影響する関連障害を説明できる。					教科書の該当部分を復習する。(30分)				
	8	前半テストとその解説					クラスでそれぞれまとめたレポートを基に復習を行なう。				
	9	摂食嚥下障害の評価 ～観察と簡易評価～					教科書の該当部分を復習する(30分)				
	10	摂食嚥下障害の評価 ～精密検査～					教科書の該当部分を復習する(30分)				
	11	検査結果のデータから嚥下障害を評価する					教科書の該当部分を復習し、評価記録を読めるようになる(1時間)				
	12	嚥下のスクリーニング評価を体験してみよう					教科書の該当部分を復習し、クラスメートと模擬演習を行う(1時間)				
	13	摂食嚥下障害に影響する心理・社会的問題を説明できる。					教科書の該当部分を復習する(30分)				
	14	模擬症例の情報をまとめ嚥下障害を評価することができる。					教科書の該当部分を復習する(30分)				
	15	後半テスト国家試験問題					前期授業の内容を振り返り後期授業に備える。				
評価方法	(1)授業の中で小テストを10回実施する。(2)前半テストと後半テスト(筆記)を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験	◎		◎							30%
	前半テスト	◎		◎				◎			30%
	後半テスト	◎		◎				◎			30%
	小テスト	○		○				○			5%
	授業内発表・演習点	○		○		○		○			5%
履修上の注意											

科目名	成人聴覚障害の診断							
科目名(英)								
単位数	1		時間数	30時間		担当者	竹松 知紀	
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	補聴器メーカーにて言語聴覚士として勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年							
授業概要	聴覚障害に対する言語聴覚療法の評価診断および言語治療に関する知識・技能・態度を修得する。							
授業形式	講義： ○		演習： ○		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					成人聴覚障害の評価について概説することができる		
	○					補聴器、人工内耳の適応例を挙げることができる		
			○			語音聴力検査を模擬的に実施できる		
	○					模擬ケースカンファレンスにて模擬的に報告することができる		
	○					聴覚情報補償について説明できる		
テキスト・教材 参考図書	教科書：藤田郁代(監)「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版」医学書院							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	成人聴覚障害の評価概論					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	2	面接による評価					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	3	聴力検査の選択					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	4	純音・語音聴力検査☆ 実習					十分に練習して実技試験にのぞんでください	
	5	語音聴力検査☆ 実技試験と単元テスト					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	6	コミュニケーションおよび包括的聴力の評価					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	7	心理社会的側面の評価					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	8	聴覚補償機器					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	9	補聴器・人工内耳の適応と評価					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	10	中枢性聴覚障害					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	11	機能性聴覚障害 と単元テスト					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	12	情報補償					評価サマリを作成する(1時間)	
	13	評価サマリの作成					治療計画を作成する(1時間)	
	14	統合と分析、治療計画の作成					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)	
	15	症例報告会 ルーブリック評価					講座全体を振り返り、繰り返し学習する(1時間)	
評価方法	(1)単元テストを2回実施する。(2)実技試験を1回実施する。(3)症例報告をルーブリックにて評価する。(4)定期試験を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	単元テスト×2	○	○				30%	
	宿題・レポート	○			○		10%	
	実技試験		○	○			20%	
	症例報告		○		○		10%	
	定期試験	○	○				30%	
履修上の注意								

科目名	小児聴覚障害の支援										
科目名(英)											
単位数	1		時間数	30時間		担当者	城丸 みさと				
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	言語聴覚士として施設に勤務				
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年										
授業概要	聴覚障害に対する言語聴覚療法の評価診断、言語治療に関する知識・技術・態度を修得する。										
授業形式	講義： ○		演習： ○		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△				
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標					
	○	○				聴覚障害と関連障害における言語聴覚療法の評価診断の基本概念と方法を説明できる。					
			○	○		聴覚障害と関連障害における言語聴覚療法の評価診断を模擬的に実施できる。					
	○	○				聴覚障害の言語治療の基本概念と方法を説明できる。					
			○	○		聴覚障害の言語治療の基本概念と方法を模擬的に実施できる。					
テキスト・教材 参考図書	標準言語聴覚障害 聴覚障害学第二版 医学書院 2015										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	聴力検査の選択					内容をA4用紙一枚にまとめること				
	2	新生児聴覚スクリーニング					内容をA4用紙一枚にまとめ、実技練習を行い、観察の不明点を上げておくこと。				
	3	BOAとCOR					内容をA4用紙一枚にまとめ、実技練習を行い、観察の不明点を上げておくこと。				
	4	ピープショウ検査と遊戯聴力検査					内容をA4用紙一枚にまとめ、実技練習を行い、観察の不明点を上げておくこと。				
	5	検査結果とその他の情報の統合と解釈					内容をまとめ、ケーススタディの準備を進めること				
	6	聴覚補償機器の活用					内容をA4用紙一枚にまとめること				
	7	聴能訓練					内容をA4用紙一枚にまとめること				
	8	聴覚障害の支援の原則					指導・訓練・支援の原則とプロセスをまとめる				
	9	言語治療計画立案					ケーススタディ準備をしておく				
	10	ケーススタディ計画					他のグループの発表内容をまとめる				
	11	言語治療教材作成					ケーススタディ準備をしておく				
	12	ケーススタディ支援					他のグループの発表内容をまとめる				
	13	言語治療記録					ケーススタディ準備をしておく				
	14	ケーススタディ継続					他のグループの発表内容をまとめる				
	15	国家試験対策					国家試験過去問題、聴覚障害分野の解説を熟読し、理解できるところとできない所を明確にしておく				
評価方法	(1)レポートを数回実施する。 (2)定期試験(筆記)を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	○	○				70%				
	小テスト										
	宿題・レポート			○	○		30%				
	発表・作品										
履修上の注意	聴覚系の他の講座資料を振り返りながら受講してもらいたい。 国家試験過去問題から関連問題を探し、開講期間に全問理解すること。										

科目名	画像診断学											
科目名(英)												
単位数	1		時間数	15時間		担当者	鈴木 睦					
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務					
対象学科・学年	言語聴覚学科 2 年											
授業概要	脳画像の読影のための基本的知識と共に、脳血管の環流についても説明する。また、国家試験問題の解説を行う。											
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				画像読影のための脳解剖が説明できる。						
	○	○				脳血管の構造としくみについて分類することができる。						
	○	○				国家試験問題の解説を説明することができる。						
テキスト・教材 参考図書	三輪書店、 梗間 剛 . 国家試験にも臨床にも役立つ！リハビリPT・OT・ST・Dr.のための脳画像の新しい勉強本.											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	脳解剖からみた脳画像 リハへの役立て方 前頭葉 等					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。					
	2	脳解剖からみた脳画像 頭頂葉・空間性注意のネットワーク					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。					
	3	脳解剖からみた脳画像 言語機能の脳内ネットワーク					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。					
	4	脳解剖からみた脳画像 運動・感覚神経、大脳基底核、嚥下領域					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。					
	5	脳解剖からみた脳画像 小脳、辺縁系、脳血管、その他					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。					
	6	CT・MRI 基本・国家試験問題					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。					
	7	CT・MRI 応用・国家試験問題・症例					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。					
	8	まとめ					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。					
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
評価方法	(1)小テスト、(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)		○		○						70%	
	小テスト		○		○						30%	
履修上の注意												